

日本インターンシップ学会東日本支部 2020年度第2回研究会

2021年1月26日

日本インターンシップ学会東日本支部

1. はじめに

日本インターンシップ学会東日本支部は、下記の通り、支部研究会を開催します。テーマは、「インターンシップ研究の意義と手法」としました。参加者の皆さまとともに、これからの研究活動の充実に向けた議論を展開したいと考えています。

2. 企画趣旨

三省合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」が策定された1997年、23.7%に過ぎなかった大学等におけるインターンシップの実施率（単位認定を行うインターンシップのうち、特定の資格取得に関係しないもの）が2018年には81.7%に達するなど、近年、インターンシップは、広く社会において一般化しつつあります。加えて、現在、政策等の強い後押しもあり、地方創生インターンシップやリカレント教育プログラムにおけるインターンシップなど、多様なインターンシップの推進が図られています。これらにともない、インターンシップ研究の裾野はますます拡大し、インターンシップを研究の対象とする研究者の所属や専門分野も一層多様化しています。

このような現状を踏まえ、今回の研究会では、インターンシップ研究の原点とも言うべき研究の意義についての議論と考察をおこなうとともに、インターンシップ研究の多様な研究の手法についての理解を深めたいと考えています。今回の研究会が、参加者の皆さまの今後の研究活動を推し進める一助になれば幸いです。

3. 詳細

【日時】 2021年2月27日（土）13:00～16:00

【形式】 オンライン（Zoom）開催

【参加費】 無料

【申込方法】 研究会に参加希望の方は、2月22日（月）までに、以下の google フォームよりお申し込みをお願いいたします（必要事項のご記入をお願いいたします）。規定の人数に達した場合は途中で締め切らせていただく場合があります。

<https://forms.gle/Lt72Xs4d4DcSBYVh7>

【当日の参加方法】

前日までに zoom のミーティング ID、パスワードをご登録いただいたメールアドレスに送信いたしますので、開始時間までにアクセスをお願いいたします。（開始20分前よりアクセス可能となります）

スケジュール

13:00	支部長挨拶
13:05	趣旨説明とインターンシップ研究の意義（山口 圭介 氏：玉川大学）
13:35	基調講演「インターンシップ研究の手法」（古田 克利 氏：立命館大学大学院）
15:00	休憩（15分）
15:15	会員研究発表「ドイツの専門大学(Fachhochschule)におけるインターンシップ(実習 Semester)の研究とその意義」（佐藤 勝彦 氏：ブレーメン経済工科大学）
15:45	総括
16:00	閉会

*講演者プロフィール・発表概要は次ページをご覧ください。

【申し込み・お問い合わせ】

〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1

目白大学メディア学部メディア学科 牛山研究室内

日本インターンシップ学会東日本支部事務局（担当：牛山、上岡）

電話 0359963130 / E-mail jsikanto@gmail.com

講演者・発表者プロフィール・発表概要

「インターンシップ研究の手法」(古田 克利 氏)

【略歴】

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科准教授。専門は人材マネジメント。同志社大学大学院総合政策科学研究科修了。博士(技術・革新的経営)。日本インターンシップ学会理事。主な著書に『IT技術者の能力限界の研究—ケイパビリティ・ビリーフの観点から』(日本評論社、2017年:日本労務学会賞受賞)、『キャリアデザイン入門自分を探し、自分をつくる』(ナカニシヤ出版)等。

【講演要旨】

本講演では、インターンシップ研究の目的とそれを実現するための方法をいくつか提示する。それを手掛かりに、参加者相互の意見交換を行い、参加者がそれぞれの立場でインターンシップ研究を発展させるためのヒントを得る機会としたい。特に、以下の点について議論を深めたい。(1)インターンシップ実践者が研究することにどのような意味があるのか、(2)リサーチクエストにはどのような種類があるのか、(3)仮説の導き出し方の一事例、(4)推論の基本形(演繹と帰納)等。

「ドイツの専門大学(Fachhochschule)におけるインターンシップ(実習セメスター)の研究とその意義」(佐藤 勝彦 氏)

【略歴】

現在ブレーメン経済工科大学客員教授・日独協会理事。元三菱商事参与・秀明大学教授・淑徳大学教授・多摩大学特任教授・立命館大学客員教授。現在、日独交流、グローバル人材育成、若者・シニアの就職支援に注力中。著書「面接力をつける本」(共著東洋経済新報社)「楽しいキャリアデザイン」(共著八千代出版)

「インターンシップ入門」(共著玉川大学出版)

【発表要旨】

ドイツの専門大学(Fachhochschule)は1968年の制度創設以来、この半世紀の間に総合大学(Universitaet)と並んでドイツの高等教育を担う重要な存在となった。これは偏に専門大学が目標とする学術的で実践的な教育が実現され、特にセメスター中に長期専門的なインターンシップ(Praktikum)を行うことにより実務経験を積み、その結果として産業界から要請されている即戦力となる人材の輩出において成果を挙げているからであろうと思われる。